

目指す学校像	「愛情と信頼に支えられた、夢と希望をはぐくむ学校」 学べてよかった学校 地域とともにある学校・通わせてよかった学校 勤務してよかった学校
--------	---

重点目標	1 情報端末を活用した学びの自律、個別最適化と協働的な学び、探求的な学びの充実 2 組織的な教育相談、生徒指導體制の充実による、安心・安全な学校の実現 3 コミュニティ・スクールとしての理念・方策の共有とスクール・コミュニティとしての実践 4 実践的な教職員研修と一人ひとりの教職員が支え合い、高め合う、同僚性の高い職場の実現
------	--

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学 校 自 己 評 価							学校運営協議会による評価			
年 度 目 標					年 度 評 価			実施日令和 年 月 日		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等		
1	<現状> ○全国学力学習状況調査や市の学習状況調査では、国語、算数ともに、ここ数年同レベルの結果を残している、特に算数での能力を発揮する児童が多い。 ○日頃の学習の様子から、落ち着いて学習に取り組む、国語の知識・理解で話す、聞く、算数の基本的な計算の力がついている児童が多い。 <課題> ○国語の読む、書く、算数の変化と関係に課題がある。 ○国語の学習に対する興味、関心が算数に比べると低い傾向にあり、読む、書く力と正答率にも影響しており、個別最適な学び、協働的な学びの充実が課題である。	・学びの自律、個別最適化、探求化の充実に向けた、情報端末の活用と授業改善 ・国語の研究を生かした他教科での指導法の工夫、改善、協働的な学びの充実	①情報端末を使って探求的な授業を積極的に行い、その効果を職員で共有する。 ②学びの指標を活用し、児童の実態に合った、個別最適な学びに向けて、授業改善を行う。	①年間を通して、情報端末を使った探求的な学習指導ができたか。 ②学びの指標の結果を生かして、授業改善が図られ、児童に変容が見られたか。						
2	<現状> ○児童の学校評価で「毎日、元気に登校している。」「いじめや仲間はすれどせず友達と仲良くできている。」の肯定的回答が95%以上になっている。 ○昨年度、施設・設備に関わる事故は0だったが、老朽化が進んでいる。 <課題> ○自己肯定感の向上や家庭との連携、集団生活への適応支援のため、生徒指導、教育相談、特別支援が連携しての適切なケース会議開催など、組織的な取組をさらに充実させることが課題である。 ○児童自らが、安全に生活する意識を高められるようにする必要がある。	・児童一人ひとりの実態に応じた、支援や相談体制のさらなる整備 ・児童の安全意識の向上と、施設設備の点検、修繕の徹底、迅速化	①「心と生活のアンケート」を活かした積極的な生徒指導、教育相談を行う。 ②生徒指導部、教育相談部、特別支援教育部、SC、SSWを組織的に連携させ迅速、誠実に支援、相談ができるようにする。 ③Sola ルームを活用した、多様な学びの実現。	①「心と生活のアンケート」実施後、速やかに面談等を行うことができたか。児童のあいさつ運動などが積極的になったか。 ②関係者が適切な場面で迅速に連携し、ケース会議等を開いて、事案に対応することができたか。 ③Sola ルームを有効に活用できたか。						
3	<現状> ○辻小学校運営協議会で、目指す児童像について熟議をし、「かかわりあい・協働」をテーマとして、地域、家庭、学校(小・中・高)が連携しながら、子どもの心を育てていくことを共有した。 <課題> ○辻地区では既にスクール・コミュニティと言えるような取組が積み重ねられてきており、学校運営協議会で共有した、子どもの健全育成のための「かかわりあい・協働」を時代に合わせて、これまでの取組も含め、どの様に実現していくかが課題である。	・目指す児童像を実現し「かかわりあい・協働」の在り方を共有するための、ICTも活用した情報発信 ・主体的児童を育てるための、コミュニティ・スクールとしての具体策の策定	①学校Webページや学校安心メールで学校行事や児童の様子を紹介する。 ②動画配信などを活用し、学校の教育活動や児童の成長への関心を高める。	①学校Webページ(平均月3回以上)や学校安心メール(行事ごと)で学校行事や児童の様子を紹介することができたか。 ②動画配信などを活用し、学校の教育活動や児童の成長への関心を高めることができたか。						
4	<現状> ○ICTの効果的な活用を発展、深化させるため、情報端末やアプリ等の活用法について、エバンジェリストを中心に研修を重ねてきた。 ○中学年以上の教科担任制で国語、算数、社会、理科、体育に取り組むことによって、その利点をさらに生かすことができている。 <課題> ○逐次アップデートされる教育DXに適應できるよう、組織的に取り組む必要がある。 ○教科担任制等で高まった同僚性を活かし、より働きやすい職場にしていけることが課題である。	・ICTの更なる活用による授業や事務作業の効率化 ・教科担任制による効率的で専門性の高い授業の実施 ・同僚性を高め、働きやすい職場の実現	①無線LANや校務用端末を活用した授業や事務作業で業務の負担を減らす。 ②中学年以上の学年での教科担任制の実施 ③管理職が率先して職員室の同僚性を高め、支え合い、高め合う職員集団にする。	①授業準備や事務業務の効率化ができたか。 職員アンケートで、業務の効率化に対する肯定的なアンケート90%以上。 ②職員アンケートで教科担任制に対する肯定的な回答が90%以上。 ③職員アンケートで、働きやすい職場に対する肯定的なアンケート90%以上						